

Food Industry Group  
食品産業グループ

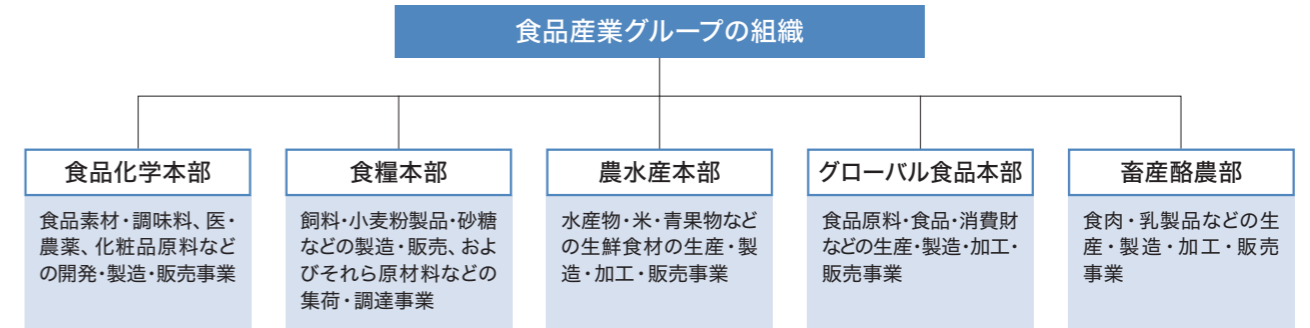


Our Vision



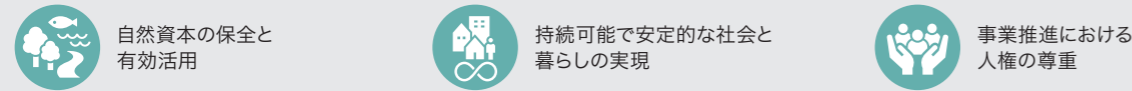
常務執行役員  
食品産業グループCEO  
三枝 則生

サプライチェーン全体におけるさまざまな環境・社会課題の解決に貢献し、安定的かつ持続可能な供給モデルの構築を実現します。消費者ニーズを捉えた商品を安定的に供給し、消費者の「安全・安心」の確保に取り組み、社会の要請に応える価値の提供を追求しています。また、良質な商品・サービスを海外市場へ水平展開し、成長機会の創出も目指していきます。



マテリアリティ

関連するマテリアリティ



事業とマテリアリティとの関連性

世界的な人口増加・消費拡大による食料不足が懸念される一方、フードシステムが抱える環境・社会性面の課題への注目が高まっており、食料の安定供給と持続可能なサプライチェーン構築の両立という社会課題の解決に取り組むことは、当グループの使命であり成長の機会でもあると認識しています。

食品産業に広く関わる当グループは、事業活動の中で食品廃棄物が発生する事業形態であり、これらの廃棄物を削減することは、上述の課題解決に寄与する打ち手の一つです。当グループでは、DXによる需給予測の精緻化や、各事業会社が持つ機能やイノベーションを發揮し、食品廃棄物の削減や、飼料用原料として活用する等の食品リサイクルを推進することで、持続可能な安定した社会と暮らしの実現に貢献します。

また、当グループでは、多岐にわたる国や地域で生産された商材を取り扱っており、サプライチェーンを含めた事業活動全体における人権の尊重、および自然資本の保全と有効活用も重要な課題と認識しています。当社の人権・労働問題・地球環境等への取り組みの方針である「持続可能なサプライチェーン行動ガイドライン」の遵守状況を調査するべく、環境・社会性面のリスクが高い商材について人権・環境デューデリジェンスを毎年実施しており、調査を通じた実態把握、および対応・対応が必要となる課題の是正を進めることで、安定的、かつ持続可能な供給モデルの構築に取り組んでいきます。

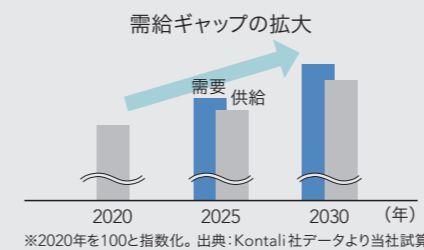
グループの強み・戦略

グループの強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>良質なたんぱく源であり養殖適地が限定されている鮭鱒の規模感のある事業基盤</li> <li>穀物飼料・畜産事業を核とした、食料の安定調達に資するサプライチェーン</li> <li>おいさと健康を通じ、生活者の豊かな暮らしに貢献する食品化学技術</li> </ul>
中期経営戦略2021総括	2021年3月期は新型コロナウイルス感染拡大による影響から、消費行動が変化し、外食を中心とした需要の減退から苦戦を強いられるも、鮭鱒養殖事業や穀物飼料・畜産事業を中心に、生産効率の改善や販売力強化等の自助努力により、2022年3月期は収益力向上を実現しました。また、伊藤ハム米久ホールディングス(株)や三菱商事ライフサイエンス(株)を核とした植物肉の開発・製造・販売への取り組み等、消費者の変化を捉えた新たな取り組みも展開しました。
中期経営戦略2024における戦略	食のサプライチェーンにおける、環境・社会課題の解決に取り組みながら、持続的な成長を実現していきます。DX等デジタル技術を活用した需給予測・業務可視化・物流効率化等を通じて、サプライチェーン全体の効率化の実現も目指すとともに、食品廃棄物やGHG削減にも貢献していきます。また、安全かつ安定したサプライチェーンを強化し、日本への食料の安定供給も実現していきます。
今後の成長見通し	世界の人口増加と消費の拡大に加え、日本においては少子高齢化が進展する中、健康志向の高まりや環境・社会課題に配慮した食品へのニーズが高まることを見込まれています。こうした食料需要の増加や消費者トレンドを事業機会と捉え、多様な食品の安定供給に資するグローバルなサプライチェーンを駆使して持続的な成長を図ります。また、循環型成長モデルの実践や新技術への対応を通じてさらなる成長を実現していきます。

主要な成長ドライバー

収益の柱の強化		第三の成長の柱の発掘
鮭鱒養殖事業	穀物飼料・畜産事業	
<ul style="list-style-type: none"> <li>生産性向上や生産量拡大といった生産面での強化と、付加価値化や市況変動リスク低減といった販売面の両輪での実行を通して、収益力向上に努めます。</li> <li>養殖適地が限定されている鮭鱒で、陸上養殖等の新技術にも取り組みます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>畜産事業において、収益構造強化によるトップラインの引き上げと、事業構造改革によるコスト競争力の強化の両輪での実行に努めます。</li> <li>DXによるサプライチェーン全体の効率化により、ビジネスモデルの変革にも努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>循環型成長モデルの実践を通じて、新たな収益源となる成長の柱の発掘およびポートフォリオの最適化を図ります。</li> <li>食品分野における新技術へ対応することで、技術革新によるディスラプション/急成長分野にも対応していきます。</li> </ul>

グローバル鮭鱒需給見通しイメージ



ビジネスモデルの事例

穀物飼料・畜産事業におけるサプライチェーンの強化

- 穀物飼料の原料調達・製造から、生産(畜産)、製造(食肉加工)、リテイル(外食)に至るまで、垂直統合サプライチェーンの事業モデルを構築しており、ポラティリティの高い局面でもサプライチェーン全体で収益を安定化させることが可能です。
- 原料調達においては、主要な生産地からの原料調達網の強化や安定調達に努めています。今後も、安全かつ安定したサプライチェーンを強化し、日本への安定調達を実現していきます。
- DXによる需給予測の精緻化や、各事業会社が持つ機能やイノベーションを發揮し、食品廃棄物の削減や、飼料用原料として活用する等の食品リサイクルを推進することで、持続可能な安定した社会と暮らしの実現に貢献します。また、グループで培った成功体験やベストプラクティスを、対面する業界に浸透させていくことで、食品産業のビジネスモデルの変革につなげていきます。

